

## 2021 年度第 2 回 職業実践専門課程

### 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会議事録

日 時：2022 年 7 月 15 日（金） 14：00～15：30

場 所：大阪文化服装学院 南館図書室

出席委員：糸井委員、萩原委員、植田委員、小林委員、河野委員、上泉委員、岩光委員、  
奥田委員(欠席)、志貴委員(欠席)

学校関係者：岩崎、大橋、加藤、豊田、杵山、白倉

1. 開会のあいさつ
2. 議長選出
3. 学校関係者評価委員会
4. 教育課程編成委員会
5. 質疑応答
6. 閉会

理事長より開会の挨拶

委員の方々の紹介

糸井委員が議長に選任され学校関係者評価委員会が開始。

理事長より資料の説明

#### 【学校法人の概要】

5 学科にて構成。学生数はここ数年、右肩上がりが増加していたが、2022 年度は少し減少している。

#### 【2021 年度の主なレビュー】

2021 年度は昨年に引き続き、教育の質を高いレベルで担保し、飛躍的な成果を上げた。また、75 周年という記念すべき年でもあり、積極的な「攻め」の姿勢を貫いた 1 年となった。コロナ禍で学院行事の中止に伴う余剰予算を、「新事業」や「設備・環境改善」等、将来を見据えた投資として積極活用した。新聞雑誌等メディアは弊校をベストファッションスクールであると認めており、アパレル、百貨店等企業の評価も高まっているが、高校生並びにその保護者世代、或いは一般の方々への浸透はまだまだと言わざるを得ず、この点の広報戦略が問われる。

#### 【2021 年度の主な事業】

- 1, 卒業生の田中大資氏を資金援助し、「tanakadaisuke」ブランドとして東京コレクションにデビューさせた。また、現役学生ブランド「DOKKA vivid」「YUUNA ICHIKAWA」の2ブランドが同日インスタレーション形式のショーを実施した。
- 2, 株式会社 TFL の協力を得て、4月から立ち上げた3Dモデリストコースは、ファッション専門学校では日本で唯一のコースであり、ファッション業界が推進しているDX並びにSDGsの観点からも注目されている。来年3月に卒業生を輩出するが、すでに専門商社から採用打診が入っており、就職先の拡大という点でも大きなメリットがあった。
- 3, 株式会社ニューロープ社の協力を得て、ブランドマネジメント学科3年生にAIビジネス活用カリキュラムを導入した。InstagramやECサイト上にある膨大な画像を情報源とするAIを、学生が実際に使用し課題の解決と仮設の実証を行った。
- 4, 倉敷デニムを使用した産地協業に加えて、尾州（ニット）・西脇（播州織）・高野口（パイル）の3拠点で新たに協力先を開拓し、取組を拡大。カリキュラムに落とし込んだ。最終3月の阪急スークで5グループが作品を製品化し販売した。2022年度も進行中。
- 5, 万全の態勢で2022年2月11日に中之島グランキューブ大阪で卒業作品発表会を実施した。各方面からの評価も高く、特に梅田阪急百貨店のバイヤー責任者が高く評価して下さり、3月に同店舗で行われた「デニム de ミライ」に弊社が招待され製作販売した。
- 6, 「デニム de ミライ」は阪急百貨店、伊勢丹新宿本店等 大手百貨店にて、フィリップ・セルジオ・ロッシ、ミナペルフォネン等一流デザイナーがユーズドデニムを使って作品を製作販売する取組。
- 7, 国立ロンドン芸術大学講師 Oleg Mitrofanov 氏を招聘し、ポートフォリオ制作スキルを習得する事を目的とし、若手教員、スーパーデザイナー学科3・4年生を中心に特別講義を開始。2022年度は、ファッション・クリエイター学科やブランドマネジメント学科も講義を受けている。
- 8, ファッション・ビジネス学科の販売ロールプレイングコンテスト「PALカップ」を、金沢文化、香蘭、モード学園、弊校の4校で開催し、接客動画アーカイブによる審査でグランプリを獲得した。
- 9, ブランドマネジメント学科プロデューサーコースが、「起業家育成プログラム」を導入し、阪神梅田本店でポップアップストアをオープンした。
- 10, スーパーデザイナー学科3・4年生が「NEW ENERGY」に参加し新宿住友ビル三角広場でマイブランドを発表した。
- 11, スーパーデザイナー学科、ファッション・クリエイター学科、ブランドマネジメント学科、および当校卒業生が、阪急うめだ本店うめだスークにて、「SUPER CREATIVE ACT」を開催し、各産地特有のテキスタイルを使用し、製作した商品を販売した。

- 12, ブランドマネジメント学科ショップ開発コースが HEP FIVE に長期運営ショップ「FREPPII」をオープンし、ショップ運営を3か月行った。
- 13, 海外戦略はコロナ禍により大きく行動が制限されたが、そのような状況下でも着実に進めている。一年遅れで卒業生の森上ひかりさんがポリモード校に留学し帰国した。当校教員の蓬莱彩奈もポリモード校マスターコースに留学し、2022年後期に帰国予定。

#### 【就職状況】

求人企業数が、昨年比30%アップで、業界動向も上向き。ファッション・クリエイター学科ではデザイナー職の内定者が一昨年レベルまで回復。パタンナー職も昨年に比べて回復。縫製職ほか特色のある企業内定が増加。販売系は募集が少なく、業界以外での内定が増加し、従来の動きとは異なった。スタイリスト学科はアシスタントとして東京を中心に就職した。全体としてはコロナ前のほぼ7割まで戻り、世間的には回復してきた。しかし業界的にはまだまだ不透明感がある。楽観はできないが、回復基調ではある。就職できなかった学生へのフォローは行っているが、そういった動きも5月頃までで、それ以降はアルバイト等するケースが多い。

#### 【高等教育就学支援の申請状況】

2020年からスタートした給付型奨学金で、全体の15%にあたる100名以上の学生が対象となっており、経済的に困窮している学生の一定数は救済できている。

#### 【退学者】

2021年度は学生数も増えたがその分、退学者数、率ともに昨年より増加。退学理由の分析と同時に各学科に退学者を出さない意識を持たせ、危険信号の出ている学生を早急に察知対応するよう努力を促す。今後も細かなケアで対応していきたい。

#### 【学生募集】

2021年度の学生募集は、来校型オープンキャンパスと並行し、来校型の個別見学会、Zoomによるオンライン型の個別相談会を実施。Instagramの動画配信機能を活用したインスタライブで作品展示見学が出来るイベントも開催。「WEBオープンキャンパスサイト」を「受験生応援サイト」としてリニューアルして、SNSを使った募集活動が充実した。

また、体験入学は内容を簡素化し12月から再開した。

2021年の状況は、クリエイター系学科は好調であったが、ビジネス系、スタイリスト系は減少。要因はコロナ禍によるファッション業界の魅力ダウン。情報発信の質、量の低下で来校者減。関西コレクション撤退も大きい。2022年の方針としては、「ファッションライト層」の獲得増を目指す。

#### 【中長期計画】

2019年10月から2021年3月まで1年半に渡り、リクルート社をパートナーとして中長期計画を策定し、「グローバル戦略」「DX教育の推進」「インキュベーション」を重点3テーマに設定し、8種類のプロジェクトとして2021年4月よりスタートした。

#### 【グローバル戦略】

- 1, 海外留学&海外インターン推進 PJ
- 2, ラグジュアリーコース新設 PJ

#### 【DX教育の推進】

- 3, 3Dモデリストコース推進 PJ
- 4, AI教育推進 PJ

#### 【インキュベーション】

- 5, インキュベーション機能設置 PJ

卒業生に対するサポート。メインテーマは「ネットワーク機能の構築」と「ビジネス支援機能の検討」。具体的には同窓会組織「すみれ会」をSNS機能を備えたデジタルプラットフォームの「OIFer LINK」に改名・統合する。スタイリストは個人事業である為、横との繋がりが薄い。東京等にコミュニティーが出来ればよい。岩光さんにもご協力をお願いしたい。

#### 【その他のプロジェクト】

- 6, 在校生を起用したSNS広報 PJ  
放課後、ゼミ形式で「インフルエンサーマーケティング」という特別講義を行っている。
- 7, 授業オンライン化推進 PJ
- 8, 学内事務機能強化 PJ
- 9, 情報セキュリティーPJ（中長期PJとは別でスタート）

#### 【学院内装工事】

オープンキャンパスに来校された保護者から、建物の老朽化を指摘されたことを受け主に共用部分から改修し、快適かつ清潔な学習環境を担保し、安心して過ごせるイメージを持って貰うための取組。それに併せて、建物の老朽化、労務環境改善、セキュリティーの改善に対応し、学院の内外装や移動備品の更新を行う。期間は2022年7月末から8月下旬。年度をまたぎ最低2回に分けて実施予定。

#### 【財政面】

2021年度は在校生の増加に伴い収入も増加した。過去20年以上無借金経営を堅持し、財務基盤は安定している。

学校関係者評価委員会の説明終了。

続いて、理事長より教育課程編成委員会の資料の説明。

#### 【教育課程の編成】

中長期計画にて各系統の「育成したい人材像」を設定し、カリキュラムの開発を目指す。

#### 【成績評価の基準】

成績評価は学習態度、出席状況、試験、提出課題、成果物等をもとに総合評価。スーパーデザイナー学科は74点以下、ブランドマネージメント学科は64点以下、ファッション・

クリエイター学科、ファッション・ビジネス学科、スタイリスト学科は54点以下が不認定となる。

**【資格検定等】**

各試験の結果報告は、2021年度自己評価報告書に添付されている。

**【質疑応答】**

岩光：アパレル以外に就職した学生がいるとのことだったが、どのようなルートで就職したのか。

大橋：当校からはアパレル以外の就職先は紹介していないが、学生自らがネットで探したり、自身の出身地で偶発的に他業種へ就職するケースが見られた。

小林：当社においても、現在求人は出せていないが、ここ最近は少し流れが変わってきており、卒業後、一時的に個人で活動した後に就職活動を再度開始するいわゆる第2新卒が出てきている。学校はその様な学生に対してもアプローチをしているのか。

豊田：現状のアプローチに関しては学生からの接触後の対応となる。今後は「OIFer Link」のSNSで卒業生と学校が繋がり、基本機能として仕事紹介・キャリア支援を広めていく予定。現在その専用の機能を追加すべく、笑屋と要件定義まで完了している。

小林：一方通行ではなく、「OIFer Link」を通じてキャリア支援体制を整えていく途中という事でよいのか。

豊田：その通りで、学校側から「OIFer Link」を通じて求人情報を公開していくことも考えている。

上泉：保護者としては就職の事が気になるが、卒業後も就職に関する相談に乗ってもらえるのか。「OIFer Link」は、プラットフォームを作るだけではなく、新たな求人も載せるということか。また企業は新卒ではなく既卒組にも求人は出すのか。

大橋：企業によっては新卒と第2新卒の2種類を同時に出す企業もあるし、個別に出す企業もある。卒業後は、先生に相談したり、キャリアセンターに来たり、どれだけ学校と接触するかが重要。今はまだアナログ対応だが今後は「OIFer Link」を整えて活用できるようにする。

小林：当社も是非参加し、求人にも活用したいと思う。

豊田：企業では、第2新卒と中途採用は基本同じ枠で採用するのか。それとも別枠で採用するのか。

植田：当社では、同じ枠と考えている。昨日、この春に卒業された方を中途採用で面接した。社内でも議論になったが、募集は中途だったので中途扱いとした。企業側から言うと、今後も人手不足が目に見えており、これからは一斉に初任給が変わってくると思う。そのためにも今、門戸を広げておくことが大切と考える。

豊田：ここ2年はコロナ禍でもあり、企業側も求人をあまり出していなかったもので、隙間の世代が出来ているのではないかと。ここにきて徐々に業績も回復し、今後中途採用が活発になるのではないかと考えている。

植田：その通りなので、人材が居ればぜひ紹介してほしい。

上泉：卒業後何年まで就職に関する面倒を見てもらえるのか。

大橋：何年でも見る。

白倉：卒業生が来てくれれば、全て相談に乗る。

萩原：学生への投資（OIFer LINK、内装工事、セキュリティー等）がすばらしい。ラグジュアリーコースプロジェクトも魅力がある。これらの投資は学校行事中止の余剰予算があり、一時的に投資が可能だったのか。それとも今後も継続して投資するのか。

理事長：予定していたものが中止になることによって余剰予算は発生するが、コロナの影響もある程度見えてきたのでここにきて、今まで中止していた学校行事を復活しつつあるのが現状。余剰予算の使い道は、毎年予算を組み協議している。

豊田：実施できなかった行事として主なものは海外研修。その予算を他の教育研究費として使用した。海外研修は昨年度に関しては実施できずに延期しており、本年度は2年分の予算を組んでいる。

但しその中でも産学連携や設備投資、その他教育研究費に関しては昨年度と変わらず、前向きな予算を組んでいる。

理事長：予算に関しては、部門ごとに集約して検討協議する。年度によって学生数の変動はあり収入も変化するが、積極投資を基本ベースとしている。学生にとって良い環境を作るための投資は今後も続けていく。

あいざわ：現在、東京にスタイリストは1200人ほどいる。インキュベーションへの取り組みについては、スタイリスト同士のいろいろな情報交換ができるシステムとして期待したい。AIに関して言えば、当社もスタイリングマップでAIを取り入れており、活用している。また、当社もTFLと今年はコラボを計画しており、今後いろいろ繋がっていけるのではないかと期待している。

糸井：退学者については、給付型奨学金が貰えるので、経済的理由による退学は減ってきたとの事。しかし、今年は去年から比べると増えている。それがコミュニケーション云々によるものだという事であるが、2019年度は今より多くの学生が退学している。実態として毎年10%~20%の退学者が出るのはやむを得ないのか。

大橋：退学理由の第1は、方向性の違いが大きい。自分が目指そうとする進路が思っていたのと違うという理由。経済的理由によるものはゼロではないが昨年から給付型奨学金で着実に減ってきているのは事実。入学を決める時点で、学校の内容や方針をよく理解して、自分の考えていることとミスマッチはないかどうかをしっかりと検討したうえで入学を決めることが重要であると思う。昨年、退学者が減ったのはコロナの影響もあり、出欠に関してコロナ関連による理由は公認欠席を認めたことも理由として挙げられると思う。専門学校の退学率は大体10%前後、多いところで17~18%程度。1年生の段階である程度安定したら、後は大きな問題はなく続けていける。1年前期、つまり入学後半年の間に学習内容や方向性が自分の思っていたことと違うという事に対するお互いのギャップをどのように埋めていくかが重要であると思う。

糸井：1年生が多いのか。

理事長：退学者全体の7～8割が1年生。ミスマッチは2年生以降には少なくなる。

植田：デジタル化、IT化と今の時代に即した授業を展開しているが、3Dモデリストはファッション・クリエイター学科だけ、AIはブランドマネジメント学科だけなのか。他の学科でのIT系授業の機会はあるのか。

理事長：3Dモデリストに関しては、ソフトウェアの台数分が受講できるコースの人数となる。それ以外に有償となるが在校生向けに希望者には特別ゼミ形式の講座を実施している。

加藤：今年も希望者は多かった。ファッション・クリエイター学科だけでなく他学科でも受講は可能。また、卒業生は本校とは別の外部スクールであるTFLで、社会人向けコースを受ける事が出来る。生涯教育を推進している。

植田：アパレル系は相対的にデジタルに弱いのが実情。IT系の教育を受けた若い世代の人たちが業界に就職して、先輩を追い越せるような人材に育ってくれればもっと活気が出てくると思う。

加藤：先ほども申し上げたが、当校の生涯教育の一環として、TFLというスクールで社会人向けに授業料も抑えて3Dモデリストの講義を受講することが可能なので、もしよければ貴社も活用を検討してはどうか。

上泉：海外研修は、ブランドマネジメント学科では2月に実施される予定とのことだが、コロナ禍で実施できなかった場合、積立金はどうなるのか。

豊田：昨年に関しては一部代替の研修などを行い、それ以外に奨学金という形でバランスを取って差額を支給することにした。まだ今の時点では何とも言えないが、おそらく、将来ご自身での留学検討用に、一部を奨学金という形で渡すことになると思う。

上泉：返金されるということか。

加藤：海外研修費用は海外研修積み立てという形はとっておらず、学費として頂いているため「返金」という概念にはならない。実は3年制のブランドマネジメント学科では2年制の「ファッション・ビジネス学科との学費の差額かける3年間」以上に費用が掛かっているのが実情。コロナが落ち着いたら、自ら海外研修に行き貫うという形で、奨学金を支給することになる。

上泉：保護者としては、修学旅行積立金のイメージを持っていた。実施できない場合は返して貰えるという認識だったが、少し内容が違うという事が理解できた。

豊田：どのような形になるかは分からないが、学費分に見合う価値のあるものを提供したいと思う。

以上